

巻頭言

看護学科教育部長 軸丸清子

本学看護学科は平成 16 年 4 月に、前身である奈良県立医科大学看護短期大学部から、奈良県立医科大学医学部看護学科に改組され、4 年制大学としてスタートし、今年で丁度 10 年になります。この秋にはそれを祝して 10 周年記念を催す予定になっています。

一方、平成 24 年 4 月には、大学院看護学研究科に看護学コースと助産学コースが設置され、この春（平成 26 年 3 月）には 9 人の第一期生が修了します。私が教育部長を拝命しておりましたこの 2 年間は、飯田学科長が今期の就任時に表明されました次の 6 つの課題解決に向かって、学科長の着実なリーダーシップのもと務めて参りました。

- 1) 教育環境の整備
- 2) 教員間の軋轢の問題解決
- 3) 附属病院への就職率アップ
- 4) 臨床講師の制度づくり
- 5) 進路相談室の設置
- 6) CNS (certified nurse specialist) コース立ち上げ

1) の教育環境の整備は、看護学科旧館を中心に、専門学校時代から積み残されてきた老朽化した品々を全教職員が一致団結して片付け、会議室・演習室等が快適・有効に使えるようになりました。また教育支援課の協力を得て、学生用のトイレや学生ホールが改修され、快適かつ機能的に使用できるようになりました。

2) の教員間の軋轢の問題は、組織的な取り組みを行うことによって、改善されました。

3) の卒業生の附属病院への就職率アップは、昨年（平成 24 年）は 43%、今年は 38% と一昨年（平成 23 年）の 27.5% を上回りましたが、目標の 50% に向けてこれからもさらに努力する必要があります。

4) の臨床講師の制度づくりは、看護学科・看護部ワーキンググループが中心となって体制づくりが進められ、昨年 4 月からは専門基礎科目、専門科目等に附属病院の看護師が教育講師として派遣され、機能しています。

5) の進路相談室設置と 6) の CNS コース立ち上げは来年度以降の課題として残りましたが、5) の進路相談室設置は、今年度 4 月に開設される看護実践・キャリア支援センターに位置づけられる予定になっています。また 6) の CNS コース立ち上げは、厚生労働省が平成 22 年から検討している特定行為に係る看護師の研修制度とそれに反対の姿勢を示す日本看護系大学協議会が打ち出している高度実践看護師構想（平成 24 年施行：専門看護師教育課程科目履修単位 38 単位）の動向を見ながら、ここ数年のうちに方向を決めていくこととなります。

開学 10 周年を迎える本学科は、文章の起承転結で言いますと、この 10 年間は「紀」に当たり、基盤づくりの時期であったと考えます。次の 10 から 20 年は「承」、つまり方向を定めて発展させていく時期ですが、30 年、50 年先の「転」を見据えて、方向を決める重要な時期であると認識しています。

新たな局面を迎えた看護学科を奈良県の看護学の教育・研究の発信地として発展させていくために、平成 33 年の新キャンパスへの移転を見据えて、全教職員が力を合わせ、教育・研究・社会貢献に取り組んでいきたいと思います。